

## 第86回麻布獣医学会 一般演題8

## 脱毛症の犬における R&amp;U の補助的効果

北村 英祐

きたむら動物病院：高知県

## [要約]

犬における、慢性経過の皮膚病のうち、特に背側の脱毛の症例に対し、通常の治療に加え、リゾプス菌麩抽出生理活性物質である「R&U」を用いたところ、それまでの治療では奏功しなかった脱毛が改善し、著明な治療効果が認められたため、その概要を報告する。

## [症例1] 雑種犬 7歳 避妊めす 体重11.6 kg

一昨年の夏より痒みあり。前医にて抗生剤、ステロイド、シャンプー、処方食などの治療を行っていたが皮膚症状は進行したとのことであった。

当院での初診時、背側に広範囲な脱毛と、毛包一致性の炎症。皮膚検査異常なし、血液検査（CBC、生化学、甲状腺）においてはコレステロール値の軽度上昇。抗生剤、プレドニゾロン（0.2 mg/kg/day）抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤、ビタミン、ミネラル剤を配合し処方した。1ヵ月半ほど経過した時点で、少しの発毛は認められたが、著変はなかったため、抗生剤の変更および、「R&U」（3 mg/kg/day）を開始したところ、明らかな発毛および症状の改善が認められ、「R&U」開始後7ヶ月で治療を終了した。

## [症例2] ラブラドル・レトリバー 9歳 未去勢 体重25.5 kg

数年前より痒みが酷く、前医にて抗生剤、ステロイド、シャンプー、処方食による治療を行っていたが、背側の脱毛と膿皮症が悪化してきたため、当院を受診。当日も、プレドニゾロン10 mg（0.4 mg/kg/day）を内服して来院した。全身の発赤と脂漏感、広範囲な脱毛および膿皮症。皮膚検査異常なし。血液検査にてGPT、ALP、GGTの高度上昇、甲状腺機能低下。超

音波検査にて胆汁うっ滞。

抗生剤、プレドニゾロン（0.14 mg/kg/day）、抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、ビタミン、ミネラル剤、タウリン、甲状腺剤、トレピプトン（排胆剤）の内服およびシャンプーの中止、ヨード剤の局所塗布を指示した。

かゆみと膿皮は順調に減少し、発毛も認められたが、新たな膿皮も現れていたため、治療開始2ヶ月の時点でそれまでの治療に加え「R&U」（3 mg/kg/day）を開始した。その後、著明な脱毛の改善と、毛づやや皮膚のコンディションの大幅な改善が認められ、現在は抗生剤は中止、甲状腺剤と「R&U」は継続、抗アレルギー治療は3日に1日で良好に維持している。

## [症例3] ポメラニアン 12歳 未避妊めす 体重2.16 kg

4-5ヶ月前より、首の後ろや体側の脱毛が進行し、膿皮症も出ていたことによって痒みと脱毛が進行し、前医にて抗生剤とステロイドの間欠的投与を行っていた。

皮膚検査異常なし、血液検査は甲状腺機能の軽度低下。好酸球数の低下。皮膚症状より、アロペシアXと診断し、「R&U」（5 mg/kg/day）およびレボチロキシン、メラトニン、酢酸オサテロン、ビタミン、ミネラル剤などを配合し処方した。治療開始2ヶ月頃より、顕著な発毛が認められた。その後休薬日を設定し、現在は完全に発毛したため週1回の投薬で再発防止の維持治療を行っている。

## [考察]

リゾプス菌麩抽出物生理活性物質である「R&U」は、生体内において、活性酸素抑制、過酸化脂質抑

制, SOD 活性維持, 好中球貪食能強化, Th1/Th2 バランス調整, B リンパ球細胞分裂促進作用, 間脳經由による下垂体ホルモンバランス調整作用など, さまざまな効果があると考えられている物質である。

「R&U」は, 犬の皮膚病治療において, 一般的な治療に併用して使用することにより, 補助的な効果をもたらすものと考えられた。